

日総工産株式会社

【2022年3月期 第1四半期決算説明会 主な質疑応答】

2021年8月16日開催

当内容はいただいた質問より、主な質疑応答を記載しております。また、ご理解いただきやすいように一部加筆、修正をしております。

Q1：離職率低下の要因について教えてください。

A1：離職率低下の要因といたしましては、幾つか要因があります。大きな要因といたしましては、働く方々にとって選択肢が増えていることです。また、コロナ禍にあつてコミュニケーションが取りにくい環境がありつつも、地方に工場があることが多く、比較的私どもの現場の管理者が従業員の方々とのコミュニケーションを密に取っていることが離職率を下げた大きな要因だと思います。もう一つは、お客様が生産を調整するために終了する方々が大きく減ったことも大きな要因では無いかと考えております。

Q2：アカウント企業である自動車メーカーの売上高の比率を教えてください。

A2：アカウント企業の中での大手自動車メーカーのグループが54.4%を占めております。半導体の影響が出ておりますが、自動車の中での構成比率が6割程度まで上がってきております。

Q3：ターゲット別売上高目標、新規事業における通期目標5億円の見通しについて、進捗を教えてください。

A3：新規事業は、エンジニアの領域をどう切り分けるかで、大きく変わると考えております。既存領域で、当社が今デジタル化を進めていることが、今後、新規事業のモデルになりうるため、全く進捗していないと、とらえられがちですが、着実にこの領域の素材になるビジネスモデルは更新をし続けております。今後5億円程度のレベルではない売上が計上できるのではないかと考えております。

Q4：第2四半期以降の採用計画をどのように考えているのか教えてください。エンジニアについては、IT系人材を含む技能社員からの切替えや新規採用により、在籍者数の増加のペースは期待できるのでしょうか。

A4：採用数の考えについてですが、基本的には月の採用人数を1,000名に置いております。1,000名を採用するにあたって、現行、月に約1億円程度使っておりますが、採用費を大幅に増やす考えはありません。現行レベルの採用コストで1,000名を採用して行くために自社サイトへの投資を下期から本格化することを考えています。1,000名の採用数と離職率が現行のレベルで推移することになれば、在籍人数の座標

は上昇すると考えております。一方、非常に難しいところは、エンジニアの採用だと考えております。中途採用・その他を行ってまいりますが、新規で採用した方々でエンジニアの在籍数を伸ばして行くことは、かなり至難な業であり、エンジニアの育成が重要となります。在籍している方々で IT の適正の高い方々を IT 系に誘導して行く、あるいは AI 系に誘導して行くこと、また、技能社員として製造現場で働いている方々を設備技術者に移行していくことを中心に当面は増やしていくことになると考えております。エンジニアはバリエーションが非常に高いため、中途採用を進めて行くのではなく、買収に力を入れて行きたいと考えております。

以上